

層富

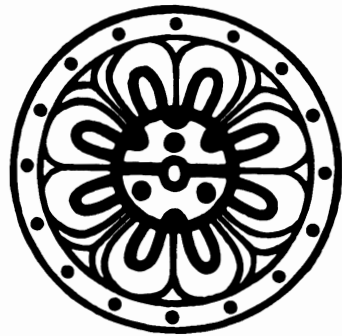
(川口勇書)

会誌名「層富」(そほ・そふ)の由来

私たちが住んでいる平城ニュータウンの地域は、古代には「層富」または「曾布」「添」とも記され、「倭六県」(やまとのりくのあがた)の一つでありました。出典は『日本書紀』の神武即位前紀己未年の春2月壬辰朔辛亥(20日)の条にみえる「層富県」によりました。

題字もはじめ小さく、あと大きくしましたのは皆様の将来と本会の末広の発展を願ったものです。

古代大和の由緒ある地名を理事会の賛同を得て会誌名としました。ご愛顧の程を。(網干善教)



会章

平城ニュータウンの「平」と文化協会の「文」を上下に組み合わせ、単純な円形にまとめ、音如々谷瓦窯跡から出土の古代軒丸瓦の中央部分に配置したものです。蓮華の中の埴輪の顔のようにも、二人三脚で楽しんでいるようにも見えます。

(基本デザイン 笥 裕)

(構成デザイン 梶野 哲)

第二十七号「層富」目次

「表紙について」	(大極殿) 写真・赤坐 右一	文・堀口 千秋	1
「層富」と「会章」の説明			2
「目次」			3
「巻頭言」	第三代会長 松村 如洋		4
「記念講演」	奈良大学文学部地理学科准教授 土平 博氏		5
「人生の哀歌を詠む五七五」	奈良番傘川柳会顧問 黒川正之進氏		9
「俳句」			11
「短歌」			15
「川柳」			20
「グループからの便り」			26
「第二十七回(平成二十一年)文化祭」			48
「第二十八回(二〇一〇年度)総会報告」			52
「会則」			59
「講座・同好会(二〇一〇年度)一覽表」			61
「編集後記」			62

【巻頭言】

会長 松村如洋

孔子はこの世には、自分に役立つ三種類の良い友人がいると言っている。いわゆる、「益者三友」（論語 季氏）である。

まず、正直な友。こういう友人は誠実で、清らか、信念を曲げず、明るく、こびることもない。あなたが臆病になった時、勇気を与え、ためらい、前に進めない時も決断させてくれる。次に、誠実な友。そのような友人と付き合えば、心が落ち着き、清らかになり、向上する。そして、博識の友。この友人は見聞が広く、教養が高い。問題が起こり、迷った時、その人の経験の中から、自分に役立つヒントが得られる。良い友人と付き合うためには人を愛する心で仲良くし、良い友人を見分ける能力を持たねばならない。どんな友人と付き合えるかは、まず自分がどのような精神力や智恵を持っているか、どのような素養を持っているかにかかっている。つまり、自ら身を修め、人格を磨くことが良い友人と付き合える前提である。良い友人と付き合えば、自らの人生はすばらしい輝きの有るものとなる。

私達も、平城ニュータウン文化協会で様々な文化活動を楽しみながら、共に良い友人に出会えるよう努力したいと思います。

（于丹《論語》心得之五 交友之道）

「ならやま」の丘陵と国郡界―境界をめぐる歴史地理―

奈良大学文学部地理学科准教授 土 平 博



1 国境と平城山丘陵

奈良山丘陵の位置は、奈良盆地と京都盆地の形成と深く関わっている。古くに両盆地内の排水が進み、その間に残されたのが奈良山丘陵である。その標高は約100mと低い、その低さと大阪や京都に近いという条件が大規模な住宅地開発を進める契機となった。

一般には、この丘陵は「ならやま」と呼ばれているが、これは土地を平たくするという意味がある。漢字では「奈良山」「平城山」「那羅山」「平山」などがあてられている。そして、東西に走向するこの丘陵の東側を「佐保山」、西側を「佐紀山」を呼ぶことが多い。

現在、この丘陵は、奈良県と京都府の境界をなしているが、それ以前は大和国と山城国の境界であった。天平

勝宝九（七五七）年八月十八日に「大倭」が「大和」に表記されるようになり、また、延暦十三（七九四）年十一月八日に「山背」「山代」が「山城」に表記されるようになった。これは奈良から京都へ遷都したことに関わっている。これらのことを考えると奈良山丘陵の位置はたいへん大きな意味をもっている。

居住地でなかった奈良山丘陵に昭和三十年代後半から新たな住宅地が開発されるようになった。住宅地の開発は奈良山丘陵の西側、つまり二府一県（大阪・京都・奈良）の境界付近にまでひろがり、やがて「関西文化学術研究都市」と呼ばれるようになった。同時に「京阪奈丘陵」という名称が一般化していった。なかでも「平城・相楽ニュータウン（平城・相楽地区）」はこの府県界を跨ぐように造成され、その居住者の生活行動はユニークである。この開発によって奈良県と京都府の境界は一部変更されている。

2 奈良山丘陵から発する河川と水

奈良山丘陵を源流とする小河川は、京都盆地側には木津川へ、奈良盆地側には主に佐保川（下流は大和川）へ注ぐ。木津川は鈴鹿山脈や高見山付近を源流として、伊賀盆地、大和高原を経て、京都盆地に出る場所、つまり奈良山丘陵の北側で北へ向きをかえる。木津川への支流のひとつに山田川があるが、丘陵北側を東流し木津川に合流する。結局、木津川の下流淀川も佐保川の下流大和川も大阪湾へ注ぐことになるが、奈良山丘陵は両川の源流の境界をなしている。ミクロな視点において、丘陵内ではどのあたりに境界が存在するのであろうか。

3 国界と分水界

全国各地の国界（現在では都道府県界にあたる）や郡界は、自然地形（山の尾根や河川）に沿って定められていることが多かった。では、奈良山丘陵を通る大和国と山城国との間の国界は具体的にどのあたりなのであろうか。

陸地測量部による明治四十一年測図の二万分一地形図「奈良」には、まだ住宅地開発が行われていない丘陵に

府県界（旧国郡界）が描かれている。そのことについて何ら違和感はない。しかし、この地形図を読んでいくと、諸処で矛盾が生じてくる。

地形図に描かれた等高線から尾根と谷をできるだけ正確に読んでいき水系図を作成してみると、主稜線（以下、分水界とする）と府県界が一致しない。木津川の支流や支脈が府県を跨いで奈良県側に入りこんでいる。つまり、分水界は府県界のもっと南側にある。分水界によって府県界を描いたとすると、奈良山丘陵のかなりの部分は京都府側に属してしまう。たとえば、近鉄京都線沿いでは、平城駅から北側約千五百mの陸橋付近あたりに、木津川水系の支脈と大和川水系の支脈の境界がある。また、現在の奈良市歌姫町では集落内に両者の源流がある。押熊付近では、コープ押熊の北側付近に広がっていた（現在で減少してしまった）水田地帯にその境界があると考えられる。しかし、その分水界が開田によって変更されている。

平城・相楽ニュータウンの大部分（神功地区の一部を除く）は木津川水系上に造成されていることになる。さらに住宅地の造成にもなって、河川の支脈が変わって

いることも理解しておかねばならない。山田川や秋篠川（上流部は押熊川）は住宅地開発の前後において水量や水流に変化が生じていると考えられる。

4 村落と丘陵

奈良山丘陵は今でこそ大規模な住宅開発が行われ、居住地としてのイメージが強いが、それ以前は居住地としてのイメージはなかった。丘陵の南麓には、大型の前方後円墳を含む佐紀盾列古墳群が築造されている。その大型古墳の周濠の水は平城山丘陵から発する。平城京の建設にあたって、建物に使用される瓦がこの奈良山丘陵で生産されていた。乾谷・押熊・歌姫・山陵・鹿背山・音如ヶ谷・市阪・梅谷には瓦窯跡があり、丘陵地は一大生産地であった。また、丘陵からは人口稠密な奈良盆地を俯瞰するには好都合で、たとえば、戦国期には多聞城が築城された。

住宅地が造成された今でこそ新たな地名が付けられているが、かつては何と呼ばれていたのか。現在の平城ニュータウンの範囲と近世の村の範囲を比較対照させながらすすめていく。

平城ニュータウンが造成されている範囲は、江戸時代の超昇寺（二条）・山陵・歌姫・常福寺、西畑（古超昇寺）、山上（新超昇寺）、門外の七カ村の入会山であった。この七カ村に横領村を加えた八カ村は中世には超昇寺郷とよばれ、水利や林野などの共同体としてまとまりをもつ、ひとつの地域単位であった。寛文四（一六六四）年から貞享三（一六八六）までの間に超昇寺郷は村切りによって前掲の八カ村に分かれたが、村々の耕地は錯雑状態であった。それぞれの村の集落からみると、平城ニュータウンの範囲は集落や耕地の背後にあたる場所で、無居住地であった。しかしながら、この無居住地である入会山は耕地引水のための水源地带、そして薪炭の供給地であった。村の生活にとって必要不可欠な場所であった。やがて、村の生活も大きく変化し、その後の住宅地の開発へと結びついた。

近鉄高の原駅よりも約四百m南側の橋には「超昇寺橋」、さらにそこから約四百m南側の橋には「常福寺橋」と名付けられている。どちらの橋も平城ニュータウンの建設に伴って架橋されているが、その橋名はかつての七カ村の入会山であったことを物語っている。

5 境界を跨ぐ住民の生活行動

ふたたび奈良県と京都府に跨る平城・相楽ニュータウンに目を向けてみると、この住宅地には奈良市、木津川市、相楽郡精華町の境界（以下、行政区とする）がある。この行政区に区切られた住宅地に住む住民の生活行動はたいへんユニークである。上下水道、ゴミ収集、学校といった行政による住民サービスはその枠組みに基づいており、その規制を受けることも多い。道路の植栽の手入れをとりあげても、一目瞭然である。大雨・暴風や洪水などの警報が発令されると、京都府側と奈良県側の発令の違いが小中学校の休校やその対応に差が生じる。一方が休校で他方が登校していることもある。それも道路を挟んで行動の違いが出る。

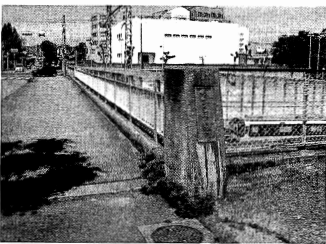
その一方で、住民は買い物物の行き先をこの行政区を意識しながら決めていくであろうか。平城・相楽ニュータウン内で買い物をしてきた後、「他の市町へ行って買い物をしてきた」という感覚はないであろう。また、このニュータウンから外へ行く場合はどうか。大阪市内や京都市内などへの通勤で多くの人々が近鉄高の原駅を利用しているが、他市町を跨ぐことを意識して高の原駅を利用

していないであろう。近鉄高の原駅と兜台五丁目を結ぶ奈良交通の路線バスには、車内に二市一町の住民が混在して乗車・下車を繰り返しているが、バスに乗りしている人がそのようなことを意識しているであろうか。最寄りのバス停が他府県にあつて毎日そのバス停を利用していることもある。これらの事例は、日本のなかではそれほど多くみられない。

行政の枠組みに基づく行動と買い物行動や通勤などのような行政単位の枠組みに基づかない行動があつて、日常・非日常のなかで混在している。丘陵地、しかも府県市町界を跨いだ住宅地でみられる興味深い地理的現象である。



常福寺橋



超昇寺橋

人生の哀歡を詠む五七五

黒川 正之進

(奈良番傘川柳会顧問)

川柳を作ってみたという声がある。手ほどきをして貰えないかと会員の乙部美鈴さんに頼まれたのは昨年の秋、さっそく十一月から北部会館で「川柳入門講座」を始めた。受講者は予想を上回って二十余人。今川柳はブームといわれているが、この種の初心者講座の参加者は十名くらいが普通。さすがに地域にすっかり根をおろしている文化協会だけの事はある。

川柳は人間や人間の絡む社会を直視する短詩型の文芸。俳句と同じ五・七・五の一七首字で詠む。ルーツをたどれば俳句と同じ俳諧から枝分かれしたものだが、大まかにいえば俳句が季語を使って自然を詠むのに対し、川柳は身近な話し言葉(口語体)で人間を詠む。番傘川柳社を創立した岸本水府さんは、「川柳は人間そのものを丸出しにした生活記録、人生批判の詩である」という。例を引いてみよう。

*もしわてが死んだらもらいはるやろな 日満

*新聞で妻の視線をよけている 乱魚

*どこへ行くの妻に二の腕掴まれる 正夫

*玩具さえ買えば祖父には用がない しんじ

*父ちゃんはヒラばく学級委員長 金太

*みんな留守父の日の父ほっとかれ 香澄

*都合つけて来たのはみんなお年寄り ゆみ子

*それがまだ生きてまんねと立ち話 ようじ

*女ばかりの長寿国ではつまらない 良子

*女が褒める女になりたいと思う 美津枝

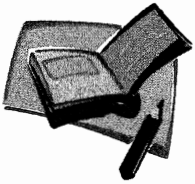
川柳が生活の詩である以上、誰でも川柳を作れる土台を持っている。人間が生きている限り、生活があるからである。人情の機微、喜怒哀楽、世の中の矛盾、川柳の素材は日ごろの暮らしや自分の人生の中にいくらでもある。ただ、川柳は創作活動だからポイントとしているだけでは何も生まれてこない。何を見てどう思ったのか、何を言いたいのか、自分の目を、自分の考えをしっかりとつことが大切になる。また川柳は言葉を駆使する文芸だから日ごろから新聞や本をよく読み、言葉を豊かにして

おくことも必要であろう。何かにつけて辞書を引く習慣も付けたい。

受講者の皆さんは川柳は初めての方がほとんどだったが、目に見えて上手になった。文化協会の輪に加わるような前向きな姿勢とそれ相応に長い人生経験が生きているのである。この後に受講者全員の作品を特集してあるのでじっくり鑑賞して頂きたい。

ところで残念なことだが、開講六カ月を終わったところで私が体調を崩し、療養生活を送ることになった。あとをどうするかが気になったが、受講者の皆さんで話し合った結果、これから自主グループとして、お互いに助け合って作句を続けていくことにしたという。幸い受講者の中に川柳を良く知っている上田善次さんがいらっしゃるので安心してお任せ出来ると思う。

協会の新しい方たちも、改めてこのグループに加わり、人生をより心豊かにするために川柳作りを楽しんで頂ければと思う。



【俳句】

雛流す

牧野和代

* 生きいきと濡れ枯芝に朝日さす

* 露の杖二河白道の思ひあり

* 日の温み畳む干し物厄日すぐ

* 手を頬にややふつくらと目借時

* 虚空より残花散りくる鹿の辺に

* 桃の日の風のあげたる藁ぼこり

* 雛壇の前咽喉佛こっくりと

* 竹藪をどんだん降りて雛流す

* かわきたる花びらとびぬ涅槃図に

* 寒弾きや塀を突抜き松太し

タングステンの灯 岩田 禎彦

皇后の小さきお帽子花童

桃の花姉といふものあらまほし

風の出て水馬頭揃えけり

冬の湯やタングステンの灯の曇る

十日戎時計回りに押し出され

蜆 汁 上田 善次

ゆく年や軒端に赤き唐辛子

感に耐へうなずく人の懐手

首細く肩の優しきシヨールかな

猿沢や塔も桜も月の影

民宿や旅の終わりの蜆汁

陽当たり 岡 良子

陽当たりの枝の先より梅咲ける

見つつ来てしだれ桜の傘に入る

紫陽花の四弁ひら大小ありて咲く

台風たいふうに風鐸の舌落ちたりと

日当たりは霽つららほとほと軒氷柱

鯉のぼり 大橋 春代

健やかに育てと泳ぐ鯉のぼり

花よりもダンゴとばかり菜を摘めり

啓蟄けいちを待てずに蛙顔かむかを出す

へビイチゴ私わたしはこと見えかくれ

金縷梅きんるいばいを入りてうれしや自作壺

春シヨール

立石 和恵

大極殿

平石 勝史

銭形の蹲踞に咲く玉椿

はんなりと道案内の春シヨール

提灯に都をどりの身を反らし

表門かんぬき門落す春炬燵

石庭の虎の子渡し梅真白

初空や鷗尾しびの際立つ大極殿

春あらし道標か傾げ通りけり

みささぎの濠かに列なす杜若かづらば

腕白の負けて泣きだす相撲かな

ポイラーの猛り狂ふや虎落笛もがりぶえ

柿熟るる

西田たまみ

今日の色

福井佐知子

亀の背に亀這い上がり水温む

嬰鏢かくしやくとして農夫なり田螺か和え

古沼の深さを覆う菱の花

そこぬけの空の青さや柿熟るる

落暉今切り絵めきたる大枯木

落葉みち径昨日の色と今日の色

図書館の混みて静かや枇杷びわの花

穏やかな聲かさなれる白日傘

野仏の笑みほうよう茫洋と花盛り

棒切れの突っ立っている冬菜畑

卯木咲く
三甲野美栄子

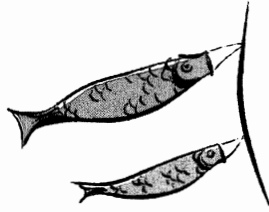
卯木咲く主一人の散髪屋

白雲が植田鏡に姿変え

竹落葉を聞いてゐるかの石仏

咲きだせり巨岩に添いて山つつじ

藤の花こぼるる池に塔潜む



【短歌】

自然を愛しむ

石井光子

古の転害門の出入り口神社の紅葉を一幅の絵とす

人の世の喜怒哀樂を考ふる夕焼けの空さまぎまの雲

鴨一羽葉の無き冬木の虫を食む飛び去るやはや雀群がる

枯れ枯れのさ庭に紅梅うめの蘇えり青き小枝につぼみふくらむ

春の木々まず花ひらく爛漫と華やかなりて心ほぐれる

下萌え

岡田越子

白き中に若草色のまんじゅうは「下萌え」言ふらし抹茶で頂く

ちらし寿司いちご大福雛に飾り女おんなを味はふ春も味はふ

船で行く大阪の街左右に見ていま満開の桜も見つつ

それぞれに我が家も息子こらも犬連れて傘寿の祝いに伊勢路誘はる

晴れやかな青い衣装の友は歌ふ舞台狭しとシャンソンアデューを

心つなぎて

川端 和加子

萌え初めしみつばつつじが車窓よりならやま通り春はうららか
美しい大極殿の復元と平城遷都に思いを馳せて
奈良が好き五重の塔はいつだって平和のために見守り続け
稲淵の棚田に燃ゆる彼岸花孫は無心に跳びはね躍る
生き難き社会にありて思うこと多くの友と心繋ぎて

早春賦

木庭 和子

鎮魂の暑き夏来ぬ汗したらせ御巢鷹山の峰登る人々
真夜に聴くフルートの音の切なくて声ひそめ唄う美しきロスマリ
ひねもすをこもりてあれば足弱をいましめ出てゆく夕暮れの町へ
早春賦おのずと口にのぼり来る日本列島雪におおわる
うまいねと食べてくれる人居る日々の幸せ遠く孤食の朝夕

生命の音

玉置小代

内宮の千年の楠に耳をあて幽かなる生命の水音聴けり
幼らが弾ける声あげ手をつなぎて千年の楠の周りを測る
真冬にも豊かにしげる楠の葉は蒼空覆い風に揺れあふ
色褪せし残りの梅が風に散る今日コーラスの仲間身罷る
背を伸ばし朗々と歌ふ君の声はにかむ顔と重なり顕たちく

母逝けり

鍋島美春

「トイレ行く」「けふはそのまましていいの」母にはじめてむつき使へり
化粧せし母若かりし日のごとく伏す吾らを育てし頃の顔なり
百年に課せられし業為し終へて薄化粧の母旅立ち行きぬ
母の亡きこの淋しさを知らざりき冬枯れの彼方夕茜映ゆ
「にいがたの大おばあちゃんげんきかな」母逝みつききて三月三歳がいふ

如月の空きさらぎ

馬場恭子

土器かわらけの出でたる土地を開墾する夫は疲れを喜びといふ
千年の昔は獵場といひしここ今不法投棄の多きに驚く
開墾し広々となる畑地には今しなやかに風わたりゆく
昨夜ふりし雨をまとひて梅の木のつぼみにまろき雫かがやく
蠟梅の花ひとつずつ増えゆきて今日あたたかき如月の空きさらぎ

晩春

松村 せつ子

ネクタイもスーツも新調しなくなりラフなスタイルの夫との暮らし
プリウスに乗り換えエコのドライブへ龍神温泉秋深まり来
お揃いのピーターラビットのマグカップホットミルクでランチ愉しむ
ダイエツト少しづつでも効果出て右肩下がりのグラフ嬉しき
庭に咲くジャスミン・リラが香りくる少しけだるき晩春の夕べ

四季

森田陽子

咲きこぼる山茶花の紅に霞降りなべて清しも元旦の朝
冬日差し柔らかく射す須磨寺の鐘樓の辺りに柿落葉散る
須磨寺の鐘の音恋いて丈高く皇帝ダリア山門に燃ゆ
リハビリの身に付けし翡翠のペンダント故郷大連の海の色せり
何事も無き一日の平安を夫と語らい遷都祭祝ぐ

風寿

安田和子

咲き満ちて桜は一つの雲になり空にゆこうと声はなけれど
五月晴れ今朝はうぐいす発声のレッスンケキヨケキヨホーホーケキヨ
車中には茶髪の男の子ふとみれば阿修羅像に似たり空をみつめて
平成の大極殿をしとらせて銀の薨に若葉雨ふる
あおによし平城の宮跡に復元す大極殿を風が寿ぐ

【川柳】

黒川 正之進

鉛筆を握ると脳に灯がともる
平凡こそ幸せ老いてから気づく
長生きをしてねと国に言わせたい
呆けと癌どっちとるかといわれても
何よりの宝は残された時間



石森 義人

- * 恥じらいも無くなりややがて千の風
- * 湯の宿で今宵は湯の香を抱いて寝る
- * 千ラシ手に特価に見入る老夫婦
- * 子や孫はゆっくりせよとこき使う
- * 省エネと騒ぐ奴ほど無駄をする

今吉 利子

- * 見つめ合う相手は基石の白と黒
- * 笑い顔七福神にはかなわない
- * 老いた手にダイヤの指輪は重荷です
- * 目を交わし胸のときめく日もあった
- * 口つぐみ読書三昧波立たず

井上 良子

- * 声援に大関たちの不甲斐なさ
- * 病む友とそつとハミング赤とんぼ
- * かるた会十八番手にした得意顔
- * 口ごもり目で挨拶の通夜まいり
- * お互いに小さな期待半世紀

上田 善次

- * 読まれてる投手の心ホームラン
- * 叱れども笑靨えくぼに負ける孫娘
- * 恥かいて笑いを売るも芸のうち
- * 花婿の猪口につぎたす祝い酒
- * 恥じらいの姿態しなに色気の名演技

乙部 美鈴

- *留守電にまだ残してゐる亡父ちちの声
- *ゆるキャラの大きな顔に癒される
- *引き際を考えている冬の空
- *見納めになるかも知れぬ老婆誘う
- *口下手な夫の側が心地よい

川端 和加子

- *アルバムで語りつくせぬ秋の夜
- *顔見知り挨拶しても名前出ず
- *好感度笑顔で会話声優し
- *泣き言を言うまい凛と口つぐみ
- *晩学に川柳始めて恥を知る

喜多 正恵

- *プレゼント喜ぶ声もクリスマス
- *お年玉笑顔も用意しています
- *笑ってるその口元が魅力です
- *一面の満開の下皆無口
- *自立する期待なんかしてません

島川 恵美子

- *姉の声受話器通して亡母ははになる
- *嫌なところばかり似た娘この泣きぼくろ
- *寝正月してたいけれどメシまだか
- *百歳の媪おぢな 顔中笑いじわ
- *他党でも手を出されたらついで握手

高須 敏子

- * 春咲くと植えた水仙師走咲き
- * 美しき亡母ははに似た顔つくりたや
- * 老いの身に登る石段仁王立ち
- * 大笑い島の水牛ポーズ取る
- * 犬散歩置き土産して恥知らず

玉置 小代

- * 一度出た言葉は口に戻れない
- * 「真実の口」から君の手は出るか
- * ルージュ濃くフォークダンスの出番待つ
- * お年玉顔が違ふと孫怒る
- * 元氣出せ孫への期待そればかり

竹本 俊平

- * 感激がどつと詰まって泣き笑い
- * 行く先を言わずに乗せた口車
- * ギャラリーの声が球押しパッティング
- * 猿山のボスの視線に目礼す
- * ぬか床は我が家の文化遺産です

仲川 栄子

- * 銀盤の美のコンテスト涙する
- * 花筏分けていきなり鯉の口
- * 明日の晴れ何かを期待して眠る
- * 孫の様なイケメン医師に脈乱る
- * しゃぶしゃぶの湯気の向こうに師の笑顔

鍋島 勝

*文化省耐震化よりスパコンと

*戦^{タメ} 墓石に刻む親心

*微笑みの絶えない介護夢に見る

*冤罪を出した判事今何を

*国連で軽口総理に懸念する

堀口 千秋

*墓石に布団着せたや春の雪

*瘦せすぎて漬物石にもならぬ夫^{つま}

*ひらがなを飛ばし読みする孫二歳

*夫にも「おはようさん」と笑顔向け

*恥多き命長らえ再の春

野口 千尋

*母の声聞いて体調推し測る

*バアちゃんと孫に誘われカモになる

*老いて又夫^{つま}という子の母になり

*老犬に我が老い先を見るような

*よろこびも怒りもすべて口がもと

松村 如洋^{ゆきひろ}

*あいさつの声はわれらの潤滑油

*思いやりあふれる声の心地よさ

*いい話聞かぬと嘆く老い二人

*顔合わせ名前浮かばず老いを知る

*ショーウインドあれはこれはと目移りし

松村 せつ子

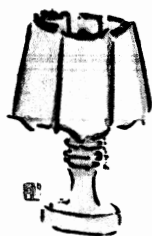
- * 恥じらいを忘れた花嫁多くなり
- * 蛇口あけ湯の出るを待つ寒の朝
- * 主なき家の桜も満開に
- * 口車乗ったふりして裏をかく
- * 眼で合図したけど通じぬおばあちゃん

渡邊 千津

- * メールして息子の声に今日は吉
- * 器量よりお人柄よと言いながら
- * みどり児の百面相に頬ゆるむ
- * 蒙古風日本角界吹きあらし
- * 満足です云う事無しと口つぐむ

村岡 敏子

- * 退院を告げる夫の声弾む
- * 声高にじゃれあう孫にいやされる
- * ムンク観る笑顔に遠き叫びの絵
- * 初旅の思い出に買う端溪硯
- * 演技する靴紐切れて悲鳴出る



グループからの便り

英語講座（初級・中級）

三宅 美苗

文化協会のニュースを見て受講して、今年で三年目になります。初級は中学二年の教科書での学習です。中学校時代（半世紀以上前です）と比べると、内容はずっとレベルが高いと感じます。外国の自然や文化・言語など新たに知ることもあり、文法や構文の説明もよく分かっています。

中級は「ドリッピーの冒険」のテープを聴き、書き取ります。私に聴きとれるのは一部の、それも名詞のみで動詞・助動詞・代名詞などがリンクして発音されると、もうお手上げの状態です。先生が書いて下さる文をひたすら写しています。その後、二分ほどのCMや会話のテ

ープを聴きます。CMや会話はテンポが速く、ほとんど聴きとることができず、後でプリントをもらい再度聴いても目で英文を追っていくのに必死です。時に知った単語が耳に入ると、ほっとしたり、嬉しくなってしまうり……。

初級と中級の間、テープに合わせて英語の歌を歌っています。これも、テンポの速い曲は言葉がメロディーに追いつかず大変ですが、でも楽しいひと時です。

学生時代の英語の学習は、英文和訳・英作文・英文法がほとんどで、面白くないものでした。今は、ヒヤリングやスピーチも、英語学習の大きな部分を占めているようです。

古希を過ぎて受講し始めた英語教室ですが、学ぶことが楽しい！と感じられる間は、続けていきたいと思っています。

歌声サロン

佐藤 和子

「歌の力」って何でしょう。昨年の紅白歌合戦のさいにNHKが、「あなたにとって歌の力とは」と募集すると、たくさんの方が一言が寄せられたそうです。

私にとつては平凡ですが「元気の素」、一緒に歌えば「人とのつながり」と言えるでしょうか。宮崎駿監督の作品で数々のテーマ曲を作曲なさっている久石譲さんが今回「歌の力」に寄せられた言葉をつなぎ合わせて『歌の力』という曲を作られました。最近の歌番組で発表されていましたが、心に響く良い曲でした。

さて、思い出の歌を皆さんお持ちだと思えますが、私の思い出の歌は『みかんの花咲く丘』『白い花の咲く頃』になります。

『みかんの花咲く丘』は、亡き母が家事や農作業の合間に縫物をしながら、弟や私に歌って聞かせた歌の一つです。母の実家はみかん畑に囲まれた静かな山里のせいでしょうか、この歌を好んで歌っていました。

『白い花の咲く頃』は、小学校五、六年の担任の先生が、

卒業式の謝恩会で歌ってくださった歌です。「淡い初恋」だったものですから、いつまでも忘れられない歌になりました。

「歌声サロン」は、近所の方に誘っていただき入会できたのですが、張り合いが増え、第二金曜日は待ち遠しいものになっています。

指導して下さっている小島先生は、明るく、甘く澄んだお声が魅力的。毎回、私達のために季節の歌等を用意して下さい、ジャンル構わずリクエストする曲にも即対応、大切に持ち上げて下さいます。又、メンバーの皆さんも役員さんも優しく心遣いして下さい、先生と皆さんで過ごす二時間はあつという間に過ぎ去り、最後の曲「野に咲く花のように」の時間には、もともとと歌っていた気分一杯です。

大勢で歌う二時間はすばらしく、「歌の力」そのもので、行きも帰りも足取り軽く気持ちのよい一日となっています。



押し花を楽しむ会 鈴木佐知子

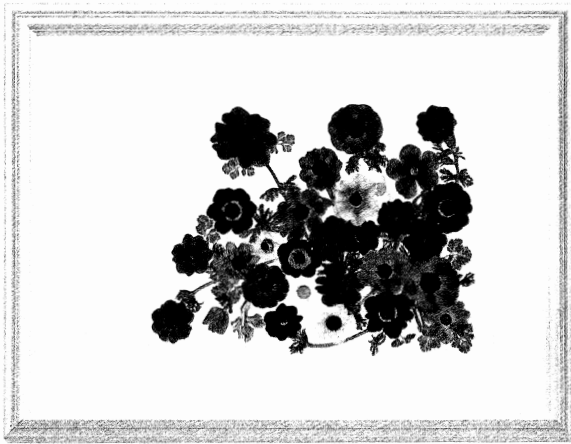
平城ニュータウン文化協会に入会して二十数年がたち、地酒を味わう会に入りました。昔の地酒は退会し、押し花を楽しむ会にお世話になり今日に至っています。

今振り返ってみると子供の頃から花が好き、小学校五年生から地元のお寺さんで嵯峨御流の生花を習っていました。昔の話ですが、お花もお庭で咲いたのを頂いたりしています。

押し花の魅力は沢山あります。花屋さんで蕾を買って花瓶に活けて開いたらすぐに押す。花の色や香りが残っているのがあります。花の向き、横や、斜めを気をつけながら、一つ、一つ、作品に愛着を込め創作の励みとなっています。

高橋先生ご指導のもと、和気あいあいと皆で頑張っています。押し花教室にメンバーが増え喜んでいきます。思いを巡らせ自由作品を作らせて頂いております。ニュータウン文化協会の文化祭に出品させてもらいます。どうぞご覧ください。

月一回第四水曜日、十時から。教室を覗いてください。押し花つてすばらしいですよ。



折り紙を楽しむ会

久本 美鈴

誰でも、どこでも気軽に楽しめる、それが折り紙の一番の魅力ではないでしょうか。

〃鶴〃折られた事ある方、随分おられると思います。祖母が幼い私を膝に座らせ、よく折ってくれました。小学生の時、友達に教えてあげた折り鶴！私の鼻少々高くなっていたような。クラスメートが入院した時、みんなで一生涯命折って折った千羽鶴！母となつて、祖母がしてくれたように娘を膝に、一緒に折った鶴！上手に折れなくて娘のホッペ、プウーと膨らんでいた。今度は孫と、楽しみです。今一歳半の孫、折り鶴はまだ無理ですが〃キューリ〃上手に折れましたよ。とつても喜んで何枚も何枚も折って、採りたてでキューリでお皿山盛りにしてくれました。

幼い頃より親しんできた折り紙！今私はこの「折り紙を楽しむ会」に入会させて頂き、楽しませて頂いております。しかしながら折り紙と申ししても、なかなか奥が深く、和紙で折る作品はそれは立派なもので、それに

結構難しい。何度聞いても???でもご心配なく、ご指導頂いてる山田先生、大変温厚な御性格、何度も何度も聞く私達に、根気よく優しく教えて下さいます。有難うございます。

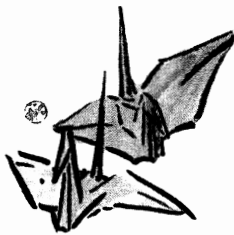
毎月第二火曜日 右京ふれあい会館にて

十時より十二時まで 楽しませて頂いています。

ぜひ一度皆様もご参加ください。

そうそう、一歳半の子でも上手に折れる????

〃キューリ〃の折り方お教えしますよ。



絵画の会

大台 雅生

芸術散歩あれこれ

○ モチーフの選択

作品を制作する場合、何を目指し、それをどのよう
に表現するか、の主題が明確でない作品は作者の意図が曖
昧で観る人を感動させることが少ないと考える。

私事で恐縮だが私の場合、毎年在阪の美術団体の展覧
会に100号の油彩を出品しているが、例年展覧会が終
わると、すぐに次の作品のモチーフを頭の中で考え制作
の準備をしているが、決して早いということはない。実
際キャンバスに向かい絵筆をふるって画布に絵を描き上
げる作業は、100号でも二ヶ月ぐらいで仕上がる。

それに比べモチーフ探しは何時ものことながらずつと
頭から離れず長く苦心する。時間をかけてもしつかりし
た主題、意図を確立しておく、あとの制作の手順がス
ムーズとなり作品の完成がかえって早くなると思う。

○ 画家は長命か？

先程亡くなられた日本画家の平山郁夫氏は東西文化の

交流に取り組まれ、シルクロードを題材にした西域の大
作を次々と発表され、まさに当代随一の画壇を代表する
存在でその死を惜しむ声が多いが、八十歳を目前に控え
た逝去であった。

芸術家の中でも画家の長命は定説のようで、小倉遊亀
画伯のように百歳を超えて制作を続けられた例は例外と
しても、高齢でも矍鑠として活躍している方々は枚挙に
暇がない。

人間の精神活動の中でも制作活動は生きる意欲と密接
に繋がりに生命力を刺激し心身を活性化させている証左では
ないだろうか

○ 夭折の画家たち

大正の画壇に彗星のように登場し、数年の活躍の後、
わずか二十二歳の若さで死を急いだ村山槐多の生涯は運
命とはいえ如何にも無残である。その才能の開花を永遠
にみる事が出来ないのは誠に残念である。

また昭和の初期、パリで愛する妻子を残して三十歳の
若さで結核のため、志半ばで現地で客死した佐伯祐三は
さぞかし無念であったと胸が痛む。

現在に時代を移すと、梅原猛の伝記「湖の伝説」の主

人公、三橋節子は気鋭の日本画家であったが、骨肉腫のため画家にとって命といふべき利き腕の右腕を手術で切断する。残った左手でライフ・ワークの『琵琶湖の民話』を題材にした作品を次々に発表するも二年もおかず再発し三五歳の若さで、幼い二人の子供を残し世を去る。

三橋の終焉の地、滋賀県大津市では三橋節子記念館を建設し作品を常設展示して故人の業績を顕彰している。作品以外に遺品や手紙、手記なども展示しており、その中で亡くなる当日、最後の病床の中、幼子に宛てた葉書があり、わが子をいとおしむ母親の気持ちが切々と綴られ、読む人に強く感動と涙を迫る。

人の命は限りがあるが、その芸術は永遠に長く人々に愛されるものであろうか、以って瞑すべきである。

了



古典文学を読む会

川端和加子

「源氏物語」は日本が誇る五十四帖という大長編で、一人では一生かかっても読み通せないし、先ず文法やら語釈がないと読めず、私にはとても無理と思いつつも、少しは勉強したく単発の市民講座に行ったこともありました。

文化協会が本格的に軌道に乗った頃、松岡先生に「万葉集」か「源氏物語」の講座を開講して欲しいとお願いしたことが思い出されます。松岡先生は「万葉集」を、その後開講して下さって現在二十周年を迎えました。

「源氏物語」は、四年ほど前、浅田知里先生により「京ふれあい会館」で毎月第一と第三土曜日、午前十時より十一時半まで教わっています。先生は学校で教鞭をとっておられた豊かな経験があるからでしょうか、とてもわかりやすく楽しい授業で、あつという間に時間が過ぎてしまいます。昨年は夢が広まって紫式部が源氏物語の構想を練った場所と伝わっている「源氏物語千年紀」に因んで宇治や大津市の石山寺などゆかりの地を訪ねた楽

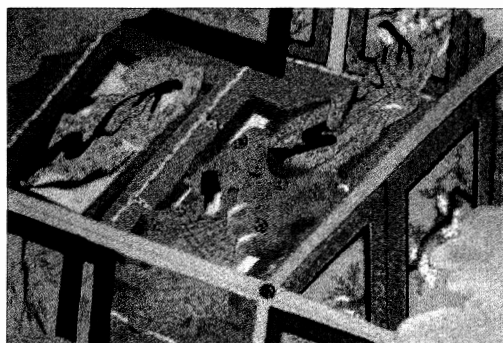
しい一日でした。

今は「空蟬」に入ったばかりですが、飛ばさず読み進んでいく事を望んでいます。

古典に興味のある方、まだ席に余裕があります。見学も歓迎です。どうぞお越しください。

「空蟬の羽に置く露の木がくれて

しのびしのびに 濡れる袖かな」



源氏物語絵巻「空蟬」

古文書を読む会

佐伯 正五

奈良に移り住んで二十数年、趣味のハイキングでありこちと歩き回ったが、古道探索会に参加して街道の随所に見かける石道標が興味深かった。方向・里程・設置年月・寄進者など内容も字体も様々で、江戸期以降のものが多いから超短文の古文書の一つと言えまいか。もっとも、これは無学の老人の独言。

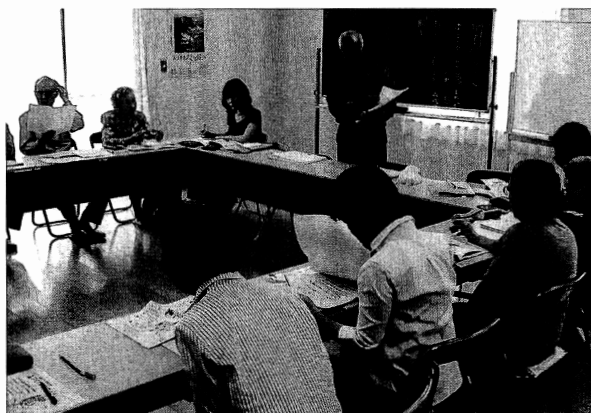
文化協会に、「古文書を読む会」の発足を知り、さっそくお仲間に入れて貰って早五年余り。先生のご指導のとおり勉強しておればもう少しは読めるようになるはずだが、まったくの不勉強、実力は少しも向上しない。先生お持ちの豊富な資料から勉強の種目は多岐にわたって飽きることは少しもない。

天皇・公卿のおやかな文章と、それにふさわしい流れるような文字。武将たちの一言半句にも含蓄あふれる文章、力強い文字など何れも芸術品と思われるものがある。

そして、庶民生活に関する文書の数々、お役所からの

通達、民からの上申、貸借、婚姻など、江戸期の庶民の生活が垣間見られて楽しい。文字には、専門家のものでお手本になるようなものもあれば、個人的で解説に苦労させられるようなものまで多様で、これまた面白い。

毎回、大切なポイントらしいものも教えられるので、聞き洩らしてはと出席だけは熱心だが、何分にも丙辰年生まれのもうろく、辞書の文字は拡大鏡が頼り、会員の輪読もほとんど聞きとれぬ有様、何時までお仲間に席を置いて楽しく勉強させてもらえるものかと、時に不安を感じるこの頃である。



詩吟の会

中務 明美

詩吟を習い始めてから五年が経とうとしていますが、すっかり詩吟のとりこになってしまいました。

一行が七字で、わずか四行の漢詩を二分以内で吟ずるのですが、一つの詩を一年間吟じ続けても飽きることなく、また満足する吟が出来ないというほど、奥の深いものです。

五年前に自治会の公園の清掃時に、近所の人に誘われ、一度は漢字は苦手で、漢詩も難しいからと躊躇したものの、以前からずつと熟年になったら詩吟もいいなと思っていましたので、入れて貰うことにしました。「大きな声を出しておればいい」「始めたばかりなのに上手」と先輩たちにおだてられ、励ましてもらい、気を良くして五年経ちました。練習しても、練習しても自分では良いと思っても、まだまだ満足できるものではない事を知り、奥の深さを思い知らされています。

わずか二分ですから、どんな時間の隙間でも吟ずることが出来、また何かをしていて息が苦しくなったら思い

切り声を出し、気分を楽にすることが出来ます。また、歴史を学んだり、言葉のリズムの美しさを感じたり、何よりも大きな声を出すということは、身体を健康に保つために大いに役立っているようです。

流派の吟詠大会、競吟会、また希望すれば流派を超えての競吟会もあり、何度か舞台の上で吟ずることが出来、励みや、やりがいになると同時に、適度な緊張感を感じ、人生の張り合いになっています。

本当に良い習い事を始めたものと喜んでいきます。元気で声が出るうちは、ずうつと続けたいと思っています。

永い間この会のお世話をして下さった花田清美さんが逝去されました。

心よりご冥福をお祈りいたします。

先史学講座

堀口 千秋

先史学講座は二十一年四月からNHKの放送大学で、泉先生が担当されている【考古学】—その方法と現状—の教材を読みながら放送のビデオで勉強している。

NHKから放映された日に奥村さんがDVDに録画され、講座の度に再生機をふれあい会館まで運んでくださるので、映像を見ながら先生の説明を聞き、「考古学とは何か」について勉強を進めている。発掘された遺物の分析で、実年代を考えたり、出土した土器を基準に縄文と弥生の分類が出来たり、興味は尽きない。映像を見ながら先生のお話を聞くと、固い頭にもすんなり入っていくような気がする。

六月十三日には長岡京市の公民館文化ホールへ泉先生の講演を聴きに行った。「京都府南部の縄文集落」と題したスライドを使った講演で、ホールいっぱい人で埋め尽くされ関心の深さに瞠目した。

二月十九日には泉先生の引率で京都文化博物館へ「古代カルタゴとローマ展」を観に出かけた。先生は長年レ

パノンの発掘調査に携わっていらつしやるが、ローマ時代のフェニキア・ギリシャ・カルタゴと関連する遺物も発見なされていて、古代の東地中海方面には特に詳しいお方だ。その先生の詳しい説明を随所で受けながら地中海文明の至宝ともいえる遺物を眺め、心いくまで堪能した。中でも碑文のかげら（紀元前から文字を持っていたというのに驚き）タイル絵の緻密さ（十畳敷き位の大きさで人物や景色などを小さな色タイルを張り詰めて描いている様は見事で、どんな邸の庭を飾ったものか？ 少し高いところから俯瞰できるようになっていて、これが一部分だと思つと溜息が出た）小ささまざまな塑像（実物大の物から五センチにも満たないような小さなもので、丁寧に彫りあげてある）

発掘調査でこれらの物の出土した時の興奮を感じ取れる展示品だった。

こないだ先生に恵まれた講座なのに、人数の少ないのが残念。古き時代に興味のある方、ぜひご参加をお待ちしています。毎月第三金曜日・三時より

右京ふれあい会館にて。

川柳入門講座

鍋島 勝

この春は異常な天候に支えられて桜の咲いている期間も長かった。

散る桜 散らぬ桜も 散る桜

この俳句を想い出しながら眺めていると、川柳のように聞こえる想いで花見が出来た。

講師の丁寧な解説で始まった講座で沢山の事を教えられた。日本語を大切に、間違わないように辞書を絶えずそばに置く習慣も身に付いた。

俳句でない五・七・五音の最小詩で季語にこだわらないで、普段着の日常生活にある身近な喜怒哀楽を表現する伝統文化を知らされた。その基礎から学ぶ機会に恵まれ充実した日々を送れた。

以前作った「張り紙の 故障中とは 気にかかる」の句を思い出した。そんな時、スーパーの入口扉に堂々と「閉鎖中」と張り紙してあるのに気が付いた。「・・・中」に違和感を抱いた。『食事中』『休憩中』など人格のあるものの行為には使えるが、扉や機械などには使わな

い。「閉鎖中」「故障中」は誤用である。川柳での経験から綿密に日本語を使うことを学んだし、身近に間違いが多いことも教えられた。

句題が与えられて、その語を使い五・七・五音にまとめる苦しみも体験した。できた句を読み返し読み返し用語の扱いにも、誤字がないかと思考力を集中させる緊張と、作品に夢を託する体験もしたことは「年々退行していく思考力を制御できた」と。

高齢化社会を楽しく生きることを教えられた。上手い仲間の作品に接して、自分には気が付かない生活や、物の受け止め方、陽気さ、厳しさなどユニークな表現と人間心理を、この講座を通じてたくさん知ることが出来た。川柳文化の一端に席を置かせて頂いたことは幸せでした。仲間の皆様や講師の配慮に感謝を込めて、ありがとうございました。

短歌を楽しむ会

安田 和子

私が「短歌を楽しむ会」に参加させて頂いてから何年ほど経ったのだろう。もう十年は過ぎたことであろう。全く短歌なるものの知識を持たなかった私もどうにか楽しみつつ詠えるようになった昨今である。継続することの大事さを感じている。短歌というものは一首の中に状況の表現と人間の情感を交叉させることが出来る。自分の喜びを悲しみを他人と共有することが出来る。自己からの発信を如何に美しく、あるいは哀しく訴えることが出来るか。等と「まるで何を言いたいのか？」の様な歌をつくりながらも最近はこの様なことも言えるようになりました。

月ごとの第三火曜日に私達は奈良市北部会館に集まります。十数人が集まり歌会をいたします。それぞれの個性が出ているお歌が提出されました、なかなか楽しいひと時です。

青春時代を大連で過ごされた方のお歌からは、過ぎし日の日本の一面がうかがえます。

*終戦日迎えし遠き大連を思い出でつつ夫と茶を

飲む

すっかり良いおばあちゃんになっちゃった方のお歌からはお孫さんのご成長ぶりが伺えます。

*女孫連れて映画に行きし楽しみは中学に入れば

われ一人行く

年老いた親御様の介護をなさっていた方のお歌からは、尽くしても尽くしてもまだ介護したりない親を思う心が詠われています。

*「トイレ行く」「今日はそのままがいいの」

はじめて母にむつき使へり

*九十を超えたる母の歩にあわす週に一度のスー

パーへの道

日常詠・叙景詠では

*ようやくに夫と二人の時間持て樹々の彩り秘湯

でのんびり

*青空に秋も深まり爐燃ゆるサントウンへとこの

道が好き

*満々と水を湛ふる濠めぐらせ磐之媛命陵は香とほき

存在

さて只今奈良市では遷都祭が催されています。百八
億円の資金をなげうって十年がかりで完成しました。千
三百年前の大極殿の復元が国民の期待を担って完成した
のです。賑やかにお披露目行事が次々と展開されていま
す。「短歌を楽しむ会」には二人の平城宮跡の解説ボラ
ンティアがいます。二人の歌を加えさせて頂きまして今
回の「グループ便り」とさせて頂きます。拙文をお読み
頂きまして有難うございました。皆様のご健康お祈り申
し上げます。

*ふくげんの大極殿の雄大さよ蓮の花四神十二支

高きにおわす

*雨が降り風が吹けども人の波絶えることなく
大極殿めぐる



中国語同好会

久保 皓司

最近新聞紙などで中国の話題が多い。今年度中にGDPが日本を抜いて世界第二位になるとか。自動車の販売が世界一になったとか。日本の貿易相手国が中国がトップになったとかである。

隣国の中国は、歴史的・地理的にも古くから日本との交流が盛んであり、文化的なつながりも深い。

丁度今年は平城遷都千三百年の年であり、中国関係のイベントも行われている。しかし、近年の日中関係は中国での革命もあり、国家的・政治的に不幸な時代が続き、両国民の交流・友好・理解などが閉ざされてきた感がある。が、現在は時代の流れとともに、近くて遠い国から、近くて近い国に変貌してきた。

先日テレビで、或る高校生が中国語を学ぶために故郷を離れて中国語教科のある学校へ留学しているのを見て、なるほど中国は近くになったのだなあと思感したのである。

そんな中で、私達は毎週一回中国語同好会で中国語を習っている。最初日本語も中国語も同じ漢字だから通じるものがあり、他の語学よりも楽ではないかと思ったが、読みも発音（声調）も大いに違うのには驚かされた。し

かし、コツコツとやってきたおかげで最近では大分「中国語とは」を理解できるようになってきた。そうなると思面白味も出てきて、最近では講座がある日を持つ気持ちも出てきた。又、講座を受けるだけでなく、メンバー同志で中国旅行をして本場の中国語を経験したり、文化祭で歌ったりと学習以外での交流の輪も広がっている。現在会員数は、入門・応用両クラスで二十五名おります。平均年齢もそこそこ高く暗記するのも大変（健忘症の始まっている僕だけかも）で、なかなか進歩せず先生に迷惑ばかりかけておりますが、全員和やかに楽しくやっております、できるだけ長く続けるつもりです。将来的には中国の人と会話ができればたらどんなに楽しいだろうなという夢を持ちながら頑張っております。

このように肩肘張ることなく気楽な楽しい会です。興味のある方は一度覗きにきてみませんか。講座は毎週木曜日で、入門クラスが九時～十時半、応用クラスは十時半～十二時です。

「大家好！欢迎大家参加汉语同好会。我们一起学习汉语，怎么样？」

欢迎大家来参加。」

（みなさんこんにちは！中国語同好会に参加して、私達と一緒に中国語を学ぶのはいかがですか？みなさんの参加をお待ちしております。）

トールペイント「ばらの会」

松村せつ子

この会が出来てあつという間に二年が過ぎ今年四月で三年目になります。昨年会誌「層富」No.26号の表紙に掲載していただき光栄でした。

同じ素材に同じ花の絵を描いても十人十色、色遣いだけでなく全く違って見え二つと同じ作品にはならない所が嬉しいですね。

講師の西本先生とは、公民館の講座で一緒にになり、いつも美しい素敵なバッグや時計のバンド等を持っておられ、お聞きしたら自分で描かれたとか、私も早速日傘やテッシュボックス等に描いてもらったのですが、自分で描かれたらもっと嬉しいと思ひ、文化協会でも教えてほしいとお願ひしました。(先生は自分でも教室を持たれ、多くの生徒さんが習っておられます)もちろん文化協会の事をお話して、講師の先生はボランティアでお願ひしていますと、恐る恐る言いましたところ、ご自身もペイントが好きで一人でも多くの人に楽しんで貰えれば

と快く引き受けて下さいました。

早速体験講座をして頂いたところ、十数名の皆様が参加され、これからも続けたいということになりました。先生は自宅が学園前ですのでちよつと大変なのですが、本当に有難い事と感謝しています。

小さいものは眼鏡ケースやリモコンラックなど身の回りの物、特に手提げバッグは人気があるようです。私はこの一月から来年末の間に飾りたいと羽子板に花の絵を描いていますが、なかなか進まず半年かかってようやく仕上がりました。マイペースで楽しんでます。仕上げは必ず先生がチェックして下さい、ちよつと手を入れて頂くと見違えるように素晴らしい作品になり、皆さん先生の手は魔法の手と喜んだり感激したりです。これからものんびりいろんな素材に花の絵を描いてみたいと思っています。

絵は苦手だからと思つておられる方も(私もそうでした)大丈夫。少し習つただけで美しい花の絵が描けますよ！一度体験してみして下さい。お待ちしています。



俳句入門

立石 和恵

俳句と出合って

四季のある日本の風土に育まれた季節感を表現する俳句。季語が持つ繊細で豊かな季節感。日常の生活の中で感じたこと、気づいたこと、眼についたものを素直に表現して、五七五のかたちにする。ごく当たり前の事も俳句にすることで省略され絞り込まれイメージが膨らみます。

日ごろの暮らしのすべてが俳句になりますが、未熟な私の手には負えず戸惑うことも多いのです。対象をよく見てしっかりと把握し、適切に表現し、ごまかしや気取りなく本質を見ようと心掛ける。俳句を通して何か大切なものをつかみとれたら……。

人生の秋から冬へ向かう時期に俳句と出合い、苦しみながらも楽しみを一つ一つ見つける努力をしています。句友と出会う喜びも心を膨らませます。どうぞお気軽に句会にお越しください。お待ちしております。

読書会

山内 梅乃

平成二十一年度 活動報告

四月二十四日	おお大砲	司馬遼太郎
五月二十二日	各自 自由課題図書	
六月二十六日	雪たたき	幸田 露伴
七月二十四日	蒲生氏郷	幸田 露伴
八月二十八日	ひかりごけ	武田 泰諄
九月二十五日	終の住處	磯崎憲一郎
十月二十三日	白痴	坂口 安吾
十一月二十七日	五里霧	大西 巨人
十二月二十五日	輝ける闇	開高 健
一月二十二日	新春の集い	
	栄花物語	山本周五郎
二月二十六日	金閣寺	三島由紀夫
三月二十六日	砂の女	阿部 公房

完全に作品を読めなくて、中途半端な読みで参加しても、他の方々の意見を聞くことで読みの深さも加わりま

す。
毎月第四金曜日 十時より
右京ふれあい会館でお会いしましょう。

パッチワーク研究会

島川恵美子

この会に入会させて頂き、パッチワークの難しさ、楽しさを知りました。

初めてポシエットが出来上がった時の喜びを層富に載せていただいてから六年経ちましたが、まだまだ思い通りにいきません。

打田先生や先輩たちの作品を真近に見て、どれも素敵で、あれも作りたいこんなのも欲しいと未熟にも拘らず、厚かましく手を出しご迷惑をかけています。こんな私のわがままにも、いつも優しくご指導くださり、小さなアークセサリーから袋物やタペストリーなどが出来、本当に嬉しく思っています。

今の私の目標は季節に合ったタペストリーを毎月替えてリビングに飾りたいということです。考え、迷い、試行錯誤の末やっと出来上がってもイメージ通りにいかないうちもありませんが、手が掛かる分、その時々々の達成感・満足感が次作への大きな励みになります。

リーダーの打田先生はこの会を二十年以上もご指導下さっているとのこと、本当に感謝しています。



いつも周りを和ませ、明るく楽しい気分にさせて下さるので、都合が悪く休みがちの時や、針を持ってない時でも、教室に来て話に加わり、聞いたり聞いてもらったりしているうちに心が安らぐと、皆長く続けておられます。手より口のほうがよく動いていて、時間の過ぎる速さにも驚いています。皆マイペースで思い思いの作品に取り組んでいるので、先生はひとりひとりにアドバイスしなければならぬので大変だと思いますが、今後ともよろしく願います。北部会館二階で、第二・第四金曜日一時から四時まで、楽しい時間ご一緒しませんか



ゆつくり歩こう会 打田 照子

第一回講座 五月二日(日) 佐保丘陵〜平城宮跡

第二回講座 六月六日(日) 奈良公園巨木めぐり

歩くのが苦手な私は、お手伝いを兼ねて参加することになり、奈良市運動習慣づくり推進協議会前会長で現在も委員をされています温厚な小嶋敬二郎先生の案内で、神功皇后陵を出発し、奈良駅までのいくつかの古墳をたずね、万葉歌碑を見、快晴で新緑の木々は美しく気分も足も軽やかに十三キロメートルを歩きました。

二回目は奈良公園内に四七本の巨木・巨樹があるなんておどろき、飛火野北側中央にある樟の木の雄々しさに感動し、七キロメートルを歩きました。

ゆつくり私達の歩調に合わせて説明して下さる先生のおかげと、「大丈夫?」と声かけして下さる仲間の励ましの声、そして昼食のおむすびのおいしかったことにより完歩できました。子供の頃の遠足を思い出し、歩けた自分に少し自信がつき、次会を楽しみに待っている私になりました。皆様も歩いてみませんか?



ゆっくり歩こう会の第一回は佐紀盾列古墳群を巡り、スタートしました

万葉集講座

久谷 明

今から四十数年前、当時、大阪大学教授の犬養孝先生が私の学校に講演に来られました。確か「万葉集と壬申の乱」というテーマでのお話だったと思いますが、誰一人として寝る者がなく話の中に吸い込まれた講演であったことが強烈な印象として残っています。

それ以来ずっと万葉集のことが頭の片隅に残っておりましたが、勉強しませんでした。そうした中で一念発起し、昨年夏から受講させて頂いております。

丁度「巻十五講義」のスタート位の時でして現在もそれが続いております。巻十五は「前半と後半の二部によって構成され、前半は『天平八年、新羅へ使いする人々及びそれに関係する人』が詠んだ歌中心で一四五首。後半は中臣朝臣宅守と狭野茅上娘子との贈答の歌等六三首」とのことです。

講師の松岡禮一先生からは、万葉仮名で書かれた歌の読み方、その通訳、語意、参考になる解釈を、お手製のテキストにより講義して頂けますが、同時に当時の状況

をも交えてのお話ですので、ついその中に引き込まれてしまい私自身が主人公になったようですし、命をかけての生き方、深い人の愛情など変わらない人の心というものも教えて頂き、私にとって非常に充実した時間になっております。

周りの人には理解できない文法の説明にも領いておられますので感心もさせられますが、理解力の乏しい受講生が一人位居ても許してもらえらるうと勝手に解釈し、これからも受講させて頂こうと思っております。

最後になりましたが、松岡先生は卒寿を超えられているのに殆ど休憩も取られない講義で、いまだにご自宅で勉強されておられるようでした、正直頭が下がります。

松岡先生、「どうぞこれからもお元気で講義を続けて頂きますように」というお願いをし、拙文を終わりたいと思います。ありがとうございます。



料理を楽しむ会

吉江 園子

私が友達に誘ってもらって『料理を楽しむ会』に参加させていたから、早三年が過ぎました。

初めての日、調理室に入った時、中学・高校の頃の調理実習の日にタイムスリップしたようで懐かしく、あの頃のことを甦って嬉しく思ったのを覚えています。

あの頃は調理実習の日がとても楽しみでした。友達と前日は材料を買いに行ったりして、わくわくしながらグループで調理をしていたのが浮かんできます。

あれから何十年、今は毎月第三木曜日を楽しみに行きます。

時々ミスをして、松村先生から注意を受けながら皆で協力して、和気あいあいとクッキングをして「おいしいね」と言いながらランチを楽しんでいます。

毎日の献立に悩むことがあります、先生に頂いたレシピを見て作って、レパートリーが増えて家族にも好評です。

先生はお忙しい中、献立からお買い物まで皆の分をお一人ですて下さっています。いつも感謝感謝です。

これからもご苦勞をおかけしますが、大変楽しみにしていますので、宜しくお願いいたします。

韓国語講座

高松美枝子

二年半続いた金 星熙（キム ソンヒ）先生の韓国語講座も、金先生の出産により、残念ながら昨春終わってしまった。が、その後鈴木和子先生に引き継がれ、生徒数も十数名に増え、また違った雰囲気です。右京小学校の一室で、和やかに学習は続いていたが、それも、教室を使うことが出来なくなり、ほぼ一年続いた鈴木先生の講義も、今年三月で終わってしまった。

しかし、またいつの日か先生を迎えられる日が来る事を願い、私を含めた初期のメンバー四人が集まり、週一回、四月から自主学習を始めている。

学習といっても、一度学んだテキストを読み直し、文字の成り立ちから学んでいるので容易ではない。文字を分解し、あれこれと組み合わせ、ああだ、こうだといろいろ考えてはみるが、これがなかなか難しく、正答にたどりつくのは大変である。

一日も早く先生を迎えることが出来、また文化協会に復帰できる日を全員待ち望んでいる。

フォークダンス

メアリーローズ

浅田 知里

明るく華やかな中川啓子先生のもとにフォークダンスが大好きな仲間が集まって二年間、メアリーローズというグループ名がぴったりの麗しの(?)活動であった。「であつた」と過去形で表現したのは、この素敵なサークルが先生の抛ん所ないご事情でこの四月をもって終了せざるを得なくなつてしまつたから。

フォークダンスの記憶といえば、学生時代の体育大会後のイベントで、男子と手を取り合うのが嬉し恥ずかしという程度の貧弱なものであつた私が、退職後の運動不足解消のため、音楽に合わせて体を動かすのはまあ楽しかろうと軽い気持ちで始めて、今、サークルのなくなつたことをこんなにも寂しく思うようになるとは。

月二回各二時間半の活動では、準備のためのストレッチ体操に始まり、ギリシャやイスラエルやロシアやアメリカやいろいろな国のいろいろな種類のダンスを教わ

つた。音楽や動きにお国柄が偲ばれるものも多く、まだ見ぬ国に思いを馳せたりもした。老化しつつある頭と体では、二週間後の活動時には前回教わつたダンスは霧消しており、また一から教わる始末であつたが、優しく根気よく指導して下さつた先生のお蔭で、音楽が始まれば体が自然に動いて踊れる曲も次第に増えていった。

十一月の文化祭の舞台で、華麗な衣装を着けて踊れるのも楽しみであつた。二度目の発表になる二〇〇九年の文化祭では、新趣向として客席の方々に呼びかけて舞台上がって貰い共に踊るといふ企画が功を奏し、舞台からこぼれんばかりの大きな輪ができて、興奮のうちに幕を閉じることができた。

一人二人と徐々にメンバーも増え、いい仲間にも恵まれて、これからという時であつたので、終了には本当に残念な思いで一杯である。しかし、前号の『層富』に「一人でも多くの人にフォークダンスの楽しさを伝えたい」と書いておられた先生の思いをしっかりと受け止めて、またいつの日か手を取り合つて優雅なステップを踏めることを祈りつつさよならをした。

第27回平城ニュータウン文化協会（平成21年）文化祭

[展示の部]

10月30日～11月1日

会場 北部会館文化ホール

- | | | | | |
|----------|--|---|---|--------------------------|
| ◆パッチワーク | パッチワーク研究会
新司 輝江
井本 市子 | リーダー
菅 千尋
島川恵美子 | 打田 照子
榎原千鶴子
堀部 澄枝 | 若原 和子
打田 照子 |
| ◆俳句 | ならやま句会「俳句入門」
牧野 和代
上田 善次
西田たまみ | 主宰
西澤 麻
大橋 春代
平石 勝史 | 牧野 和代
岩田 禎彦
岡 良子
福井佐知子 | 岩田 久代
立石 和恵
三甲野美栄子 |
| ◆絵画 | 絵画の会
上田 善次
西村 通弘 | リーダー
大台 雅生
野口 千尋 | 大台 雅生
小西 淑彦
山田つる子 | 辻中 修 |
| ◆折り紙 | 折り紙を楽しむ会
植松 睦夫
寺谷 征子
本井 房子
山田 玲子 | 講師
笥 ゆり子
富江 八重
山形 幸枝 | 河合智恵子
那須久美子
吉江 園子 | 高見 悦子
久本 美鈴
渡邊 千尋 |
| ◆押し花 | 押し花を楽しむ会
伊藤 京子
木村 絢子
西田 安代
吉田 敬子 | 講師
岡田真千子
杉山 安枝
西本万優美
若原 和子 | 高橋かおり
奥谷 敏子
鈴木佐知子
野原 雅子
高橋かおり | 鎌田 尚子
谷口早智子
山中優美子 |
| ◆古文書 | 古文書を読む会 | リーダー
石川 恒久 | | |
| ◆短歌 | 短歌を楽しむ会
岡田 越子
森田 陽子
川端和加子 | 木庭 和子
安田 和子 | 玉置 小代
馬場 恭子 | 松村せつ子
石井 光子 |
| ◆生け花 | 園芸の会 | 講師
北村 孫衛 | | |
| ◆トールペイント | ばらの会
西本 直江
杉山 安枝
中野美恵子
山本喜代美 | 講師
西本 直江
奥谷 敏子
高田 雅子
西本万優美
若原 和子 | 景山 光代
棚田 博代
松村せつ子 | 久保 紀子
徳永美智子
梁川 夏子 |
| ◆表装 | 表装の会
岡本 一枝
藤原 栄壽
西村 従子
(故) 渡辺 亮斗 | 講師
西島 芳子
岩坪 昇
金附みさ子
山本 康彦 | 富田三千子
石井 栄治
西島 芳子 | 吉田小夜子
大橋 芳子 |
| ◆写真 | フォトショップ入門 | 講師
赤坐 右一 | | |

[上演の部]

10月31日(土)

会場 北部会館文化ホール

開場 9時45分

司会 古川千鶴子

開会挨拶

上田善次 平城ニュータウン文化協会会長

東 義之 奈良市北部会館市民文化ホール館長

来賓挨拶

祝辞披露

平城ニュータウン文化協会代表

記念講演

関西テレビアナウンサー 山本浩之さん

演題：「拓かれた地域社会—ひとりひとりに出来ること—」

開演挨拶

平城ニュータウン文化協会代表

◆箏曲 菊池雅千絵&グループ翔

1) 飛驒に寄せる三つのバラード／長沢勝俊 作曲

1 箏 菊池雅千絵／河村 梨花／福井 栄子／田處 節子／津坂 恒子
城本 悦子／中野美恵子

2 箏 棚橋雅千穂／南湖雅千紗／比良 尚美／藤井よし子／松本八代委
山本 弘子

3 箏 今村雅千香／吉本 康子／田處 博／松村せつ子／日下田恵子
角南 史子／久保 紀子

17弦 井上雅楽和貴 山内正子

尺八 河路 円山

2) 飛驒／久本玄智 作曲

1 箏 村嶋 琴佳

2 箏 上田 真結／上田 美緒

3) 矢部の郷／宮田耕八朗 作曲

1 箏 菊池真千絵／山内 正子／藤井よし子／松本八代委／田處 博
松村せつ子／日下田恵子／角南 史子／久保 紀子

2 箏 福井 栄子／田處 節子／津坂 恒子／城本 悦子／中野美恵子
山本 弘子

17弦 棚橋雅千穂／河村 梨花

三絃 井上雅楽和貴／南湖雅千紗／村山かほり／比良 尚美／吉本 康子

尺八 河路 円山

◆詩吟 詩吟の会 西尾 弘子

《吟題》 1 偶成 (独吟) 《作者》 朱熹 《吟者》 西村 諄輔

2 漢江 (独吟) 杜牧 平尾 成子

3 荒城月夜の曲を聞く 水野 豊州 吟 辰巳 幸子
是永ユキ子

(歌入り連吟) 歌 松尾 淳子

4 青葉の笛 (独吟) 松口 月城 中務 明美

5 涼州詞 (独吟) 王翰 川崎 泰子

6	大楠公 (連吟)	河野 天籟	花田 清美 杉田 英二
7	富士山 (独吟)	石川 丈山	富江 八重
8	万葉・うちのぼる (独唱)	大伴坂上郎女	木村 麻子
9	名槍日本号 (歌入り合吟)	松口 月城	出演者全員

◆中国語で歌おう 中国語同好会 ピアノ：小島 順

曲目：赤とんぼ・蘇州夜曲・隠形の翅膀 (見えない翼)

出演：山田 玲子/馬場 恭子/神戸真知子/宇田川秀信/松村 如洋/蛭谷 真明
辻中 修/牧 理恵/野林多美男/鍋島 美春/大久保里美/熊田てる子
乙部 美鈴/谷口三枝子/井口美津子

◆コーラス 歌声サロン 指導・ピアノ：小島 順

- 曲目 1 里の秋～村祭り～月の沙漠……メドレー
2 山小屋の灯
3 北上夜曲
4 てんとう虫のサンバ
5 遠くへ行きたい
6 瀬戸の花嫁
7 いい日旅立ち

出演：上田 善次/榎原千鶴子/小泉 晃一/巽 勝代/大西百合子/花田 清美
大西 正人/松村せつ子/岸本 咲子/岡田 越子/大河原文子/川端和加子
西本 信義/島川恵美子/玉置 小代/仲川 栄子/奥谷 敏子/山岸 和夫
喜多 正恵/河合智恵子/平石 勝史/今吉 利子/市村マス子/平石 厚子
田井さち子/前田 初代/渡辺 紀子/杉中 好子/五十嵐鈴子/川崎 泰子
吉江 園子/富江 八重/是永ユキ子/古場千恵子/中野 洋子/佐藤 和子
野口 千尋/高須 敏子/伊藤 咲子/足立 信子/柏木 照子/徳永美智子
新司 輝江/松尾 淳子/宇恵 正子/三宅 美苗

◆フォークダンス メアリーローズ 指導：中川 啓子

- 曲目：1 ジームシカ
2 ハブ・ラヌ・ヤイン
3 スラム・ヤアコブ
4 ワルツ・ベル
5 涙のラブメール

出演：浅田 知里/井筒 恵子/今村 由美/川崎 泰子/君島かよ子/玉置 小代
中川 啓子/松村せつ子/宮崎 滋子/湯川 博子

◆閉会挨拶 平城ニュータウン文化協会代表



会場は溢れるほどの人波で拍手の中、山本アナウンサーに花束贈呈。



琴演奏、菊池雅千絵とグループ翔

平城ニュータウン文化協会第28回(2010年度)総会

日 時 2010年5月23日(日)
会 場 奈良市北部会館3F多目的室1

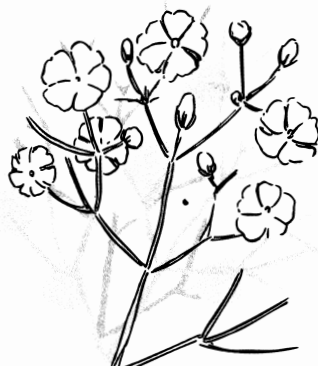
- I 開会挨拶
- II 会長挨拶
- III 来賓祝辞
- IV 議長選出
- V 議事

- ① 2009年度事業報告
- ② 2009年度決算・監査報告
- ③ 2010年度役員選出
- ④ 会則改正
- ⑤ 2010年度事業計画(案)
- ⑥ 2010年度予算(案)
- ⑦ その他

VI 閉会挨拶

記念講演「ならやま」の丘陵と国郡界—境界をめぐる歴史地理
講師 奈良大学文学部地理学科准教授

土平 博



2009(平成21年)年度事業報告

- 4月15日(水) 大和路見学会打ち合わせ(平城ニュータウン自治会に見学会お誘いの回覧)
- 4月19日(日) 春の大和路見学会 来村多加史先生 参加人数44名
- 5月1日(金) NEWS 6号 発行(5月・6月の予定)
- 5月9日(土) 役員会
- 5月24日(日) 2009年度(第27回)総会
- 6月14日(日) 役員会
- 7月1日(水) NEWS 7号 発行(7月・8月の予定)
- 7月5日(日) 理事会
- 8月2日(日) 役員会 文化祭企画担当者打ち合わせ
- 8月27日(日) 文化祭作品出展・上演参加グループの打ち合わせ
- 9月1日(火) NEWS 8号 発行(9月・10月の予定)
- 9月23日(水) 役員会 全戸配布の文化祭案内ニュース配布
- 10月3日(土) 「層富」No.26 発行
- 10月7日(水) 文化祭行事部・展示部・上演部打ち合わせ
- 10月29日(木) NEWS 9号 発行(11月・12月の予定)
- 10月30日(金) 第27回文化祭開催 講座・同好会作品の展示
- 10月31日(土) 文化祭特別記念講演 関西テレビ山本浩之アナウンサー
「拓かれた地域社会ーひとりひとりに出来ることー」
作品展示と上演
- 11月1日(日) 作品展示と上演(平城ニュータウンで活動する他グループによる賛助出演)
- 11月18日(水) 川柳入門講座開講 講師 黒川正之進先生
- 11月22日(日) 文化祭反省会・ごくろうさん会 出席者23名
- 12月28日(月) NEWS 10号 発行(2010年元旦新年号 1月・2月の予定)
- 1月17日(日) 役員会
- 2月17日(水) 役員会
- 2月21日(日) 理事会
- 2月24日(水) NEWS11号 発行(3月・4月の予定)
- 3月7日(日) 役員会

2009年(平成21年)度会計・決算報告

平成21年4月1日～22年3月31日

単位・円

〔収入の部〕

項 目	予 算	実 績	増 減	備 考
前年度繰越金	70,855	70,855	0	
会 費	330,000	375,000	45,000	@1,500×250人
後 援 費	70,000	70,000	0	各連合自治会・自治会
寄 付 金	0	0	0	
雑 収 入	7,145	2,837	△4,308	銀行利息・余剰金
合 計	478,000	518,692	40,692	

〔支出の部〕

項 目	予 算	実 績	増 減	備 考
事 業 費	190,000	155,026	△34,974	文化祭・セミナー他
助 成 金	0	0	0	
会 議 費	5,000	6,860	1,860	会場費・資料代
広 報 費	260,000	237,614	△22,386	会誌・会報・ニュース
事 務 費	5,000	4,810	△190	事務用品
通 信 費	3,000	0	△3,000	郵送料
渉 外 費	2,000	0	△2,000	協賛費
雑 費	2,000	0	△2,000	
予 備 費	1,000	0	△1,000	
積 立 金	10,000	10,000	0	
小 計	478,000	414,310	△63,690	
次期繰越金	0	104,382	104,382	
合 計	478,000	518,692	40,692	

積立金合計 66,099
網干基金 193,950

会計監査報告

2009年度の会計帳簿、証券類他、関係書類等を精査した結果適正であることを認めます。

2010年3月31日 監事 橋本 友子

役員

顧問	上田 善次・東 叡
参与	梶野 哲
会長	松村 如洋
副会長	大台 雅生・喜多 正恵・橋本 友子
常任理事	赤坐 右一・石川 恒久・宇田川秀信・大迫くき枝 大井 政子・川崎 泰子・北村 孫衛・木庭 和子 小島 順・島川恵美子・鈴木佐知子・西島 芳子 西村美佐子・西田たまみ・堀口 千秋・松岡 禮一 松村せつ子・山田 玲子・山内 梅乃
理事	
事務局長	玉置 小代
事務局次長	打田 照子
会計	藤澤 陽子
監事	浅田 知里

組織分担

広報部	部長 堀口 千秋・脇田 恒夫
組織・配布部	部長 松村せつ子
行事部	部長 大台 雅生
文化祭 上演部	部長 松村 如洋・喜多 正恵・小島 順 橋本 友子
文化祭 展示部	部長 鈴木佐知子・赤坐 右一・打田 照子
会誌「層富」	
編集部	顧問 松岡 禮一 編集長 上田 善次・玉置 小代・打田 照子 松村せつ子・堀口 千秋・島川恵美子 西村美佐子

配 布 部

神功地区（松村せつ子）

第1団地 松村せつ子
 1丁目 橋本 友子
 ガーデンハウス 藤澤 陽子
 2丁目 福井佐知子
 3丁目 谷口三枝子
 松村せつ子
 4丁目 高松三枝子
 5丁目 箕 ゆり子
 6丁目 上田 善次

右京地区（飯田雅子）

第2団地 佐々木純子
 山田 玲子
 3丁目 飯田 雅子
 今村由美子
 山内 梅乃
 4丁目 岡田 越子
 堀口 千秋
 5丁目 石川 敏子
 右京団地 西村美佐子

朱雀地区（鈴木佐知子）

1丁目 井本 市子
 玉置 小代
 2丁目 村上 寛子
 3丁目 鈴木佐知子
 4丁目 日下部清美
 5丁目 堀田 幸子
 西田たまみ
 第1住宅 大井 政子
 鈴木佐知子
 第2住宅 真中 礼子
 6丁目 小島 順

左京地区（喜多正恵）

1丁目 杉山 安枝
 2丁目 喜多 正恵
 3丁目 黒田 節子
 相楽台 富江 八重
 兜 台 川崎 泰子

2010(平成22)年度事業計画 (案)

はじめに

国内外の政治、経済の激しい変化の波に、私達の生活も例外なく大きな影響を受けています。そんな環境の中で、私達文化協会は、健康で文化的な生活を送るために、優秀な講師の先生方にご協力いただき、多くの講座・同好会を開催しています。

さらに、今後も会員の皆様には文化祭・講演会などの文化活動にも積極的にご参加いただき、ともに和やかに、健康で楽しい日々を送りたいと考えています。

1 趣味、学術、芸術などの文化講座・同好会の開催

現在、優秀な講師の先生方のご指導により、ユニークな22の講座・同好会を開催しています。今後もこれらを継続し、また会員の要望に応じて新しい講座などを開設します。

2 「第28回平城ニュータウン文化祭」の開催

開催日：平成22年10月29日（金）、30日（土）、31日（日）

会 場：奈良市北部会館3F

共 催：奈良市民文化ホール（後援：奈良県、奈良市教育委員会）

内 容：各講座・同好会の作品展示と上演

3 「第28回平城ニュータウン文化祭」記念講演及びその他講演の開催

会員および地域の皆さんが特に関心を寄せておられる問題をテーマに講演会を開きます。

4 「平城ニュータウン文化協会NEWS」の発行（隔月）

「講座・同好会」の開催日時、内容、活動状況などをご案内します。

5 会誌「層富（No.27）」の発行

「講座・同好会」の活動・研究結果の発表、各種情報提供などを掲載します。

6 平城ニュータウン各自治会、連合会など地域団体との連携、協力

各地域団体との連携を密にし、その活動、催しに積極的に参加・協力することにより、ともに地域文化の発展に寄与します。

7 会員の増強と財政の安定化

平城ニュータウンの方々へ「講座・同好会」など文化協会活動への参加を積極的に呼びかけ、会員を増やす。そして財政面を安定させ、文化協会の活力を高めます。

2010年(平成22年)度予算案

平成22年4月1日～23年3月31日

単位 円

〔収入の部〕

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	104,382	
会 費	375,000	@1500円×250人
後 援 費	60,000	各自治連合会
寄 付 金	0	
雑 収 入	618	銀行利息等
合 計	540,000	

〔支出の部〕

項 目	金 額	備 考
事 業 費	210,000	文化祭・セミナー他
助 成 金	0	
会 議 費	10,000	会議・資料代
広 報 費	285,000	会誌・会報・ニュース他
事 務 費	7,000	事務用品
通 信 費	3,000	郵送料
渉 外 費	2,000	協賛費など
雑 費	2,000	項目にない出費
予 備 費	1,000	
積 立 金	20,000	
合 計	540,000	

積立金合計	平成21年	¥ 66,099
	平成22年	¥ 20,000
計		¥ 86,099
網干基金		¥193,950

平城ニュータウン文化協会 会則

第 1 章 総則

- 第 1 条 この協会は平城ニュータウン文化協会という。
第 2 条 本部は会長宅に、事務局は事務局長宅におく。

第 2 章 目的及び事業

- 第 3 条 会員の研究・創作発表・知識の交換並びに会員相互間及び他の文化団体との連携、提携の場となり、相互文化に関する進歩普及を図り、地域文化の発展に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 1 講演会・研修会・展覧会・発表会・文化講座等の開催
 - 2 関連文化団体との連携及び協力。
 - 3 研究の奨励及び研究業績の表彰。
 - 4 会誌の発行。
 - 5 その他。目的を達成するために必要な事業。

第 3 章 会員

- 第 5 条 平城ニュータウンおよび近隣地区に在住又は勤務する者で、協会の目的に賛同する者とする。
会員の種別は次のとおりとする。
- 1 正会員 年会費 1,500円
但し、高校生 500円
 - 2 賛助会員 この協会の趣旨に賛同する者で、年間会費5000円以上収める個人又は団体とする。
 - 3 会員の更新手続きは不要とするが、会費は総会后3ヶ月以内に納入のこと。但し、2年間会費納入なき場合は退会と見做す。

第 4 章 役員

- 第 6 条 協会には次の役員を置く。
会長 1名、副会長 3名、常任理事 若干名
事務局長 1名、事務局次長 1名、会計 1名
理事 若干名、監事 2名。
- 第 7 条 理事は正会員中より選出する。
- 2 会長、副会長、常任理事は理事の互選で定め、総会の承認を得る。
 - 3 事務局長、事務局次長、会計は理事中より会長がこれを選任し、総会の承認を得る。
 - 4 監事は会員中より2名選出する。
- 第 8 条 会長は協会を代表する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は代行する。
 - 3 理事は理事会を組織し、協会に関する事項を審議し執行する。
 - 4 常任理事は理事会の決定に基づき業務遂行に当たると共に、総会で決議した事項を執行する。
 - 5 事務局長は会務の遂行に関する理事会、常任理事会等の決議に基づき全般の事務連絡処理に当たる。

- 6 事務局次長は事務局長を補佐する。
- 7 会計は会計事務を処理する。
- 8 監事は会計帳簿を監査し、通常総会において報告する。
- 第 9 条 顧問・参与を置くことができる。顧問・参与は理事会の同意を得て会長が委嘱する。
- 2 顧問・参与は会議に出席して意見を述べることができる。
- 第 10 条 役員任期は2年とし、再任は妨げない。
- 2 補欠より選出された役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員はその任期満了でも、後任者が就任するまで、その職務を行う。

第 5 章 会議

- 第 11 条 理事会は必要に応じ、会長が招集する。但し、理事の3分の1以上から、会議の目的を示して請求のあった時は、理事会を招集しなければならない。
- 2 理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。
- 3 理事会は理事2分の1以上出席しなければ、議事を開き議決することはできない。
- 4 理事会の議事は、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決す。
- 第 12 条 常任理事会は、会長、副会長、常任理事、事務局長、会計によって構成し、必要に応じ会長が招集する。以下理事会に準ずる。
- 第 13 条 通常総会は毎年1回会長が招集する。
- 2 臨時総会は、理事会が必要と認めた時、会長が招集する。
- 3 総会の議長は総会出席者の中から指名する。
- 4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長が決する。
- 第 14 条 次の事項は通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。
- 1 事業報告及び収支決算
- 2 会計監査報告
- 3 事業計画及び収支予算
- 4 その他、理事会に於いて必要と認めた事項

第 6 章 会計

- 第 15 条 経費は会費ならびに補助金、その他の収入による。
- 第 16 条 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 7 章 会則の変更

- 第 17 条 この会則は、総会の議決を得なければ変更することができない。

第 8 章 補足

- 第 18 条 この会則施行についての細則は、理事会の議決を得て別に定める。
- 第 19 条 この会則は、昭和58年2月27日から適用する。

2010(平成22)年度講座・同好会一覧

	定期講座・同好会	講師 *世話人	T E L	曜日・時間	予定会場
1	万葉集講座	松岡禮一	71-2964	第1水曜 (13:30～15:00)	北部会館会議室2
2	先史学講座	泉 拓良 *山内梅乃	71-1654	第3金曜 (15:00～16:30)	右京ふれあい会館
3	古文書を読む会	石川恒久 *西村美佐子	71-1671	第2・4土曜 (10:00～12:00)	右京ふれあい会館
4	古典文学を読む会 [源氏物語]	浅田知里 *藤澤陽子	71-1956	第1・3土曜 (10:00～11:30)	右京ふれあい会館
5	読書会	山内梅乃	71-1654	第4金曜 (10:00～12:00)	右京ふれあい会館
6	英語講座	橋本友子	71-0395	第1月曜以外の隔週月曜 初級 (9:30～10:30) 中級 (10:30～11:30)	右京ふれあい会館
7	中国語同好会	松村如洋	71-9605	毎木曜入門 (9:00～10:30) 応用 (10:30～12:00)	北部会館会議室1
8	韓国語講座	休講			
9	俳句入門	牧野和代 *岩田禎彦	71-1777 48-0760	第2木曜 (13:00～16:00)	平城院 (神功2丁目)
10	短歌を楽しむ会	*玉置小代	71-0066	第3火曜 (13:30～16:00)	北部会館会議室1
11	フォトショップ入門	赤座右一		第1・3水曜 (9:30～12:00)	北部会館会議室1
12	絵画の会	*大台雅夫	72-0456	第1・3火曜 (9:00～12:00)	北老春の家会議室
13	料理を楽しむ会	松村せつ子	71-9605	第3木曜 (9:30～12:00)	平城西公民館
14	園芸の会	北村孫衛	71-0823	第4木曜 (13:00～16:00)	右京4-7-5 講師宅
15	詩吟の会	西尾弘子 *川崎泰子	0774 72-9399	第1・3水曜 (13:00～16:00)	平城西公民館
16	歌声サロン	小島 順	71-5651	第2金曜 (10:00～12:00)	北部会館多目的室
17	パッチワーク研究会	打田照子	71-2879	第2・4金曜 (13:00～16:00)	北老春の家会議室
18	押し花を楽しむ会	高橋かおり *鈴木佐知子	71-1690	第4水曜 (10:00～15:30)	右京ふれあい会館
19	折り紙を楽しむ会	山田玲子	72-2552	第2火曜 (10:00～12:00)	右京ふれあい会館
20	トールペイント ばらの会	西本直江 *景山光代	71-2694	第2水曜 (13:00～16:30)	平城西公民館
21	ゆっくり歩こう会	小嶋敬二郎 *喜多正恵	71-7850	奇数月第1日曜	
22	川柳入門講座	*島川恵美子	71-1103	第3水曜 (13:30～15:30)	北部会館会議室

編集後記

- ◇『層富』第二十七号をお届けいたします。
- ◇本年は遷都千三百年にあたりますので赤坐氏に表紙に遷都にちなんだ写真をお願い致しました所心よくご承知下さいまして有難うございました。
- ◇奈良大学准教授土平博氏の「ならやま」の丘陵と国郡界―境界をめぐる歴史地理―を拜読致しまして歴史地理学の奥の深さに大変感銘を受けました。今後共協会の活動に御協力をお願い致します。
- ◇本年より「川柳入門講座」及び「ゆっくり歩こう会」が発足致しました。
- ◇面白い読み物をどしどし投稿下さいます様お願い致します。
- ◇御意見、御希望がありましたらなんなりと編集部へお寄せ下さい。



【編集】

層富 編集部（顧問）松岡 禮一

（編集長）上田 善次

打田 照子

島川 恵美子

玉置 小代

西村 美佐子

堀口 千秋

松村 せつ子

（文責）上田 善次



【発行】 平城ニュータウン文化協会

会長 松村 如洋

本部 〒六三〇一〇八〇四 奈良市神功三丁目七―三

【印刷】 株式会社 明新社

〒六三〇一八一四一 奈良市南京終町三丁目四六四番地